

■ 農福連携で障害のある方を採用された事例の紹介

京都市障害者雇用促進アドバイザー派遣等支援事業を活用し花苗のお仕事で採用

農事組合法人 花トピア大原野

京都の西山の麓に広がる緑豊かな大原野の地で花苗の生産や販売をしている。様々なイベントへの出展や花苗や多肉植物を直売している。

花トピア大原野で栽培されている花苗

花トピア大原野では、サフィニアをはじめ、ジニア、トレジア、ペチュニア、オージュアなどを、花市へ卸しています。

サフィニアは花が咲くととても美しく、新型コロナウイルスの感染予防で外出を自粛し自宅で過ごされる機会が増えたという皆様も、心の癒しとして、お近くの花屋さんで生花や鉢植えを購入いただいて、お部屋に生けたり、鉢植えに毎日水を遣って、開花や成長を楽しんだりしていただく、新しい楽しみを発見していただくのはいかがでしょうか。



障害者雇用で花農家の課題を解決したい 農事組合法人 花トピア大原野 理事 畑 勲さま



近隣の総合支援学校の生徒さんの農業体験を長年受け入れ、障害のある方が働く姿に接するうちに、「後継者不足の花農家に、何とかして若い人材に来てもらいたい」という想いが増えました。

そうはいっても、市内の最西端で、交通の便が決して良いとはいえない大原野に通って農業をしたい方がいら

っしゃるだろうか。仮に採用できても、息子より若い世代が居ない花農家で、継続して働いてもらえるだろうか。「不安を数えればきりがありませんでした」。そのような時に、「京都市障害者雇用促進アドバイザー派遣等支援事業」を知り、「自分が取り組まなければ、息子の代に課題を先送りして同じ思いをさせてしまう。私が働ける間に、支援が受けられるなら、一歩踏み出して将来の担い手を育てよう」と、平成30年度事業への申請を決断しました。

就労支援アドバイザーや就労支援事業所との連携で作業分解と体験会を実施

さっそく、就労支援アドバイザーの株式会社地域計画建築研究所アルパックから、市内の障害者就労支援事業所を紹介いただき、職員の方に作業全般を見ていただきました。

「農家の仕事は全部一人でできて一人前」と言われてきましたが、初めての方に馴染んでいただきやすい作業は何か、指導する際の手順は明確か、見た目にもわかりやすいか、など、花苗体験会に向けたプレ体験会をアドバイザーの提案で開催し、実際に、障害者就労支援事業所の利用者さんに体験してもらうことで、作業の細分化をアドバイザーと障害者就労支援事業所の支援員の方に手伝っていただき、感覚的な判断を伴う作業と、そうでない作業とに仕分けしました。その時に、「感覚的な判断を伴う作業は時間をかけて養成する必要がある」と、助言を受けました。

準備が整った平成31年2月19日、26日に、市内の障害者就労支援事業所の職員と利用者及び総合支援学校の教員を対象に、「花苗の就労体験会」を開催し、計24名に参加いただきました。ハウスの作業を一通り見学いただき、就労条件や作業の説明後に、花苗のポットに土を入れる作業などを体験いただきました。

その後、数名の方に実習にお越しいただき、令和元年5月、精神障害のある方1名を採用しました。



土や太陽に触れる心に優しい環境で、人と植物の両方を育てる気持ちが大切

採用した方は、朝のミーティングである程度指示を出すと、午前中一杯、一人で黙々と花苗の作業するのが特性に合っているようです。作業中の話し相手は私ぐらいで、パートで来ていただいている方達とも積極的には会話をされません。時々、お客さんが訪れた時には、その場から立ち去り、ハウスで一人、作業をされていたりします。

作業は、毎朝、初めにハウス全体の水遣りを1時間から、夏場は2時間ほどかけてしていただきます。水遣りは花苗の基本で最も加減が難しい仕事です。鉢ごとに、土が乾いていたら多めに水をやる。濡れていたら加減してやるなど、土の乾き具合を見極める判断力が必要です。それが終わると、苗をポットに移植する作業をしていただきます。ここでも、鉢に土を足してよいかどうか、見極めながら行います。成長に合わせて、トレイからより広いケースや鉢への植え替え、更に出荷に向けた梱包、ビニールカバー掛け、トラックへの荷積みなど多岐に渡ります。出荷は多い時で20ケースほどあります。他にも、肥料をやるタイミング、薬剤の分量や巻き方など、経験から習得する匙加減がいくつもあります。

一緒に働き始めて、この方のように、障害のある方の中には、外見ではわからなくても、ハートが繊細なところがある方が居らっしゃるのだと感じるようになりました。今年からは、簡単な農機具を運転したり、薬剤を扱ったり、といったことにもチャレンジして行って欲しいと考えています。新しい人との出会いにも、ご自身のペースで慣れてもらえればと思います。

これから、障害のある方を雇用される方は、どうか長い目でおつき合いいただきたい。日々、話をしながら人間関係を構築していくのは、他の初対面の方と変わりありません。

私たち農業事業者が、農業特有の土や太陽に触れる心に優しい環境で「時間をかけて人と植物の両方を育てるんだ」という気持ちを大切に寄り添えば、もっと農業分野で障害のある方が働けると 생각합니다。障害のある方が、自然の中で作業をしながら、自分のペースで仕事に馴染んでもらえる場が増えることを願っています。

障害者就労支援機関との 連携も実現しました！

農業分野にはどのような障害のある方も携われる作業があります。

社会福祉法人 京都障害者福祉センター 京都市ふしみ学園／京都いたはし学園

園長 竹内 竜也 さま

農事組合法人花トピア大原野さんの依頼を受けて、花苗出荷の繁忙期である2月を目指して、令和元年11月から生活介護事業の施設に通所されている利用者さん15名で、黒い大きな四角形の枠の中に、苗を入れる用のポット型の黒いビニールを入れていく作業を担っています。

この作業の良いところは、様々な障害のある方が携わっても、ポットが入っている箇所、入っていない箇所が一目で認識できる点、一列ごとにポットを規則正しく入れながら、すべての列が揃った時の達成感を楽しみに作業ができる点、ポットが多少汚れてしまっても商品として問題が起きない点、納期まで数カ月の猶予をいただき、余裕をもって取り掛かることができる点から、施設での仕事に適していると感じています。

このように、農業分野には、作業工程を知り、工程分析をしていく中で、当園のどのような障害の方でも力を発揮できる可能性があります。

時には、全員で農地を訪ねて雑草抜きのお手伝いするなど、農業事業者の方と連携することで、障害のある方が担い手として活躍できる農作業はたくさんあると思います。

